

特集 日本代表の誇りを胸に。

4年に1度のアンパティサッカーワールドカップ2022トルコ大会が、イスタンブールで9月30日から10月9日の10日間にわたって開催され、熱戦が繰り広げられました。

東アジア王者として出場した日本代表に2大会連続で本市在住の秋葉海人さんが選出され、大会を通して5ゴールの活躍を見せました。

広報常総11月号では、アンパティサッカー日本代表として世界の舞台で戦った秋葉さんにトルコW杯を振り返ってもらい、今後の抱負を聞きました。

アンパティサッカー日本代表 MF 9

秋葉海人

「前回大会（2018年メキシコ大会）は、日本代表メンバーに選出されたが、出場機会が無かったので、今大会は前回大会の分も頑張ろうと思いました」と2大会連続で日本代表に選出された時の心境を秋葉さんは語ってくれました。

4年前は、若干16歳で日本代表に選出されたもののベンチから試合を見ることしか出来ず、歯がゆい思いをしましたが、その経験を糧に4年間トレーニングに励み、外国の選手にも当たり前負けない体幹を手に入れました。

その結果、自慢のスピードを活かしたプレーでW杯全7試合で5ゴールの結果に繋がり、W杯グループステージ首位通過の原動力になりました。

グループステージのコロンビア戦では、代表戦初出場にもかかわらず、ゲームキャプテンとしてキャプテンマークを巻いて試合に挑み、1ゴール・1アシストと得点に絡む活躍だけでなく、ゲームを組み立てる上で重要な役割を担いました。「今の日本代表チームの副キャプテンはチームの選手全員で担っ

ています。コロンビア戦は自分にとってW杯へ初出場となった試合であり、キャプテンマークを巻いて挑んだ特別な試合でした。プレーで結果を出してチームを引っ張ることを意識していたので1ゴール・1アシストは自分の役割を全うできたと思っています」と振り返りました。

トルコW杯は11位という結果で終わりましたが「大会を通して日本代表や自分自身の課題を見つけることが出来ただけでなく、杖の使い方などを学べたので、課題を修正し、4年後のW杯は優勝したい」と抱負を語ってくれました。

「日本代表として戦う以上は、日本代表になりたくてもなれない選手もいるので、その選手たちの分も自分たちが頑張らないといけないし、応援してくれる人がいるので、どんなにつらくても泣き言は言えない」とアンパティサッカー日本代表として世界に挑む秋葉さんは、笑顔で話してくれました。

日本代表の誇りを胸に世界に挑む秋葉さんの更なる活躍に期待したいと思います。

W杯 グループステージ B

	結果	対戦国
日本	3-0	ドイツ
日本	3-1	コロンビア
日本	2-0	メキシコ



コロンビア戦でゴール前に切り込む様子

W杯 決勝トーナメント（順位決定トーナメント）

	結果	対戦国
日本	1-3	タンザニア
日本	4-3	アメリカ
日本	0-2	イングランド
日本	3-1	コロンビア



アメリカ戦でゴールを決めた直後の秋葉さん

アンパティサッカーとは

主に上肢または下肢の切断障がいを持った人々で行われる7人制のサッカー。

従来のような障がい者スポーツに必要とされた専用器具を必要とせず、フィールドプレーヤーは日常生活やリハビリ医療目的で使用しているクラッチ（主にロフトランドクラッチ）と呼ばれる2本のついで体を支えながらプレーします。